

目 次

口 絵

序
発刊のことば
発刊にあたつて

例 言

第一編 原始・古代

はじめに 三

第一章 考古学よりみた箕輪町 四

第一節 箕輪の考古学的調査のあゆみ 四

第二節 考古学的概観 七

一 先土器時代 七

二 繩文時代 一〇

(+) 成立期(草創期・早期) 一〇

箕輪町誌編纂刊行委員長 桑沢 章

箕輪町誌編纂刊行事務局長 樋口 彦雄

箕輪町誌編纂刊行室長 市川脩三

箕輪町誌編纂刊行専門委員長

(+) 発展期(前期・中期) 三

(+) 終末期(後期・晩期) 七

三 繩文土器と生活 九

(+) 土偶 九

(+) 顔面把手付土器 二

(+) 蛇体装飾の土器 三

(+) 有孔鍔付土器 三

(+) 埋甕 七

四 弥生時代	六	十一 円仏遺跡	九
五 古墳時代	三	十二 大原坂頭遺跡	三
(一) 古墳の出現	三	十三 南原遺跡(下古田)	三
(二) 箕輪の古墳	三	十四 堂前遺跡	三
(三) 人々のくらし	三	十五 ガラン遺跡	三
(四) 新しい器	三	十六 下古田区内その他の遺跡	三
六 奈良・平安時代	毛	十七 中曾根北遺跡	三
七 中世	元	十八 五輪遺跡	二
八 新しい器	三	十九 八乙女祝神遺跡	二
九 幸道遺跡	三	第二章 箕輪の遺跡と遺物	三
十 幸道遺跡	三	第一節 西部山麓の遺跡	三
十一 幸道遺跡	三	一 北垣外遺跡	三
十二 幸道遺跡	三	二 大久保遺跡	三
十三 幸道遺跡	三	三 横の木沢遺跡	三
十四 幸道遺跡	三	四 一の宮 A遺跡	三
十五 幸道遺跡	三	五 一の宮 岩屋古墳	三
十六 幸道遺跡	三	六 一の宮 経塚古墳	三
十七 幸道遺跡	三	七 一の宮 並木下遺跡	三
十八 幸道遺跡	三	八 南原遺跡(上古田)	三
十九 幸道遺跡	三	五 斧	三
二十 幸道遺跡	三	六 中山遺跡	三
二十一 幸道遺跡	三	七 本城遺跡	三
二十二 幸道遺跡	三	八 松島王墓古墳	三
二十三 幸道遺跡	三	十九 中道遺跡	二
二十四 幸道遺跡	三	二十 丸山遺跡	一
二十五 幸道遺跡	三		

第三節 沖積面の遺跡	一 箕輪遺跡	二 ダイヤ豆腐周辺遺跡	三 農協東遺跡	第四節 天竜川左岸段丘上南部の遺跡(箕輪地区)	一 北垣外遺跡	二 大原遺跡(Ⅰ)	三 大原遺跡(Ⅱ)	四 矢田遺跡	五 矢田尻遺跡	六 黒津原遺跡	七 上ノ山遺跡	八 上金遺跡	九 狐垣外遺跡	十 カネツキ遺跡	十一 御射山第一遺跡	十二 御射山第二遺跡	十三 田畠遺跡	十四 澄心寺下遺跡	十五 天王塚古墳	十六 粟飯遺跡	十七 下の觀音遺跡	十八 萱野遺跡	十九 萱野南遺跡	二十 天王塚古墳	二十一 粟飯遺跡	二十二 下の觀音遺跡	二十三 萱野遺跡	二十四 萱野南遺跡	二十五 天王塚古墳	二十六 粟飯遺跡	二十七 下の觀音遺跡	二十八 萱野遺跡	二十九 萱野南遺跡	三十 天王塚古墳	三十一 粟飯遺跡	三十二 下の觀音遺跡	三十三 萱野遺跡	三十四 萱野南遺跡	三十五 天王塚古墳
					一 叠	二 兜	三 兜	四 兜	五 兜	六 兜	七 兜	八 兜	九 兜	十 兜	十一 兜	十二 兜	十三 兜	十四 兜	十五 兜	十六 兜	十七 兜	十八 兜	十九 兜	二十 兜	二十一 兜	二十二 兜	二十三 兜	二十四 兜	二十五 兜	二十六 兜	二十七 兜	二十八 兜	二十九 兜	三十 兜					

第三章 古代の箕輪

第一節 古代の信濃国

一 律令制下の信濃国	三六	一 古代東山道	四四
(+) 信濃国の領域	三六	(+) 延喜の東山道	五五
(+) 信濃の国司と国府	三六	(+) 駅家の機構	五六
二 諏訪国の置廃	三一	四 箕輪付近の駅路	五九
第三節 古代の伊那郡	三一	(+) 道筋に関する諸説	六〇
一 伊那郡の郡域と郷	三一	(+) 各道筋の考察	六〇
(+) 諏訪・伊那の郡境	三一	(+) 沢の西村小路説	六一
(+) 伊那郡の郷	三一	(+) 上古田説	六一
第四節 伊那郡の人口と耕地	三一	(+) 大出深沢川沿岸中心説	六一
一 伊那郷の人口	三一	四 下古田説	六二
二 伊那郡の田籍と穂米	三一	(+) 大出段丘上説	六二
第五節 古代の箕輪	三〇	一 無量寺の阿弥陀如来座像と脇侍	六三
一 路原庄	三〇	(+) 阿弥陀如来座像	六三
第六節 東山道と深沢駅	三〇		
第二編 中世			
第一章 鎌倉時代	三一	第一節 伊那源氏の発祥	三一
序章	三一	一 武士の起こり	三一

第四章 戰國時代

二 伊那源氏の祖源為公	三五
三 伊那源氏と下伊那の知久氏	三五
四 伊那源氏の分流	三五
第二節 上の平城跡	三五
一 位置と地形	三五
二 構造	三五
三 周囲の山城	三六
第三節 諏訪氏	三七
第四節 伊那の平氏党	三七
第二章 南北朝時代	三七
第一節 諏訪氏と北条氏	三七
一 執權北条氏につながる諏訪氏	三七
二 中先代の乱	三九
三 横河城の戦	三九
四 大徳王寺城の戦	三九
第三章 室町時代	四〇
第一節 大塔合戦と伊那の諸族	四〇
第二節 結城合戦と伊那諸族	四〇
第三節 箕輪の郷	四〇
第一節 武田氏の伊那侵攻	四九
一 伊那侵攻の背景	四九
二 福与城の藤沢氏	四九
(一) 藤沢氏の出自	四九
(二) 福与城	四九
三 武田氏の伊那谷侵入	四九
四 福与城攻め	四九
五 武田氏の伊那統治	四九
第二節 藤沢氏従属の諸氏	四九
一 松島氏	四九
二 その他の諸氏	四九
第五章 農業	四九
第一節 農業技術の発達	四九
一 水稻栽培	四九
二 雜穀栽培	四九
三 農具の普及	四九
第二節 農民の租税負担	四九
一年 貢	四九
二 公事	四九

第六章 信仰の諸相

(一) 三日町の御射山三社
 (二) 御射山三社の祭事
 (三) 武将の寄進状

第一節 諏訪信仰と御射山祭

四三

一 諏訪信仰

四三

二 御射山祭

四三

第三編 近世

第一章 近世への歩み

四三

第一節 織田氏の侵入

四六

一 織田軍の伊那谷北上

四六

第二節 田中城と藤沢氏の没落

四六

第三節 徳川家康の伊那経略

四七

一 木曾氏と箕輪

四七

二 真田氏の箕輪支配

四七

三 菅沼定利の箕輪支配

四七

第四節 豊臣秀吉の伊那支配

四八

一 毛利・京極氏の伊那支配

四八

第二章 政治支配

四三

第一節 小笠原時代の支配

四三

一 小笠原氏の入封と箕輪領

四三

二 木下陣屋と在住家臣

四三

三 小笠原時代の箕輪

四三

四 小笠原氏移封後の箕輪

四三

第二節 脇坂氏の支配

四七

一 脇坂氏の入封

四七

二 木下在住の脇坂家臣

四七

三 加集氏

四七

四 脇坂時代の新田開発	四四
(一) 中原新田村	四五
(二) 中曾根新田村	五一
(三) その他の新田開発	五三
五 脇坂氏移封後の箕輪	五六
第三節 板倉氏支配の箕輪	五六
一 板倉氏の入封と在住家臣	五七
二 所領の分知——甲斐守と頼母領	五九
三 陣屋建物の払い下げ	五〇
第四節 太田氏の支配	五一
一 太田資良	五一
二 松島陣屋	五三
三 太田領五千石と松島古料	五四
四 歴代の太田氏	五五
五 太田氏と七か村の関係	五七
六 箕輪領支配の変遷	五九
第三章 檢 地	五三
第一節 天正の検地	五三
一 概 説	五三
二 伊那地方の天正検地	五三
第二節 寛永の検地	五三
一 檢地基準	五七
二 檢地条目	五八
三 檢地仕様	五九
第三節 寛永以後の検地	五九
一 脇坂の検地	五九
(一) 正保の検地	五九
(二) 寛永の検地	五九
(三) 慶安の検地	五九
(四) 承応の検地	五九
(五) 明暦の検地	五九
(六) 寛文の検地	五九
第二節 延宝の検地	五九
三 石高の推移	五九
第四節 檢地のまとめ	五九
第四章 貢 租	五九
第一節 貢租の種類	五九
第二節 貢租の割付	五九
一 年貢免定	五九
二 檢見取と定免	五九

(一) 検見取	五三	(二) 年貢の納入	六三
(一) 定免	五六	(一) 江戸幕府のキリシタン対策	六〇
第三節 各時代の貢租	五六	(二) 寺請制度	六〇
一 小笠原時代の貢租	五六	一 島原の乱と禁制の強化	六一
二 脇坂時代の貢租	五六	二 第二節 宗門人別改帳	六三
(一) 寛永の貢租	五七〇	三 第一節 宗門改め	六六
(一) 年貢の上納	五七一	四 第六章 村落制度	六六
(一) 小物成	五七一	第一節 近世初期の村	六六
三 寛文延宝期(幕領)の貢租	五九	第二節 村における土地所有	六七
(一) 年貢の割付	五九	一 階層別土地所有状況	六七
(一) 租率と年貢	五九	二 分家による土地の平均化	六九
(一) 六尺給米・口米	五九	三 長岡・中曾根における相地分地	六九
(四) 年貢の納入	五九	四 中期以降の土地所有高	六九
四 板倉時代の貢租	五六	第三節 村の構成	六九
(一) 年貢の納入	五六	一 村役人	六九
五 元禄十二年以降(幕領期)の貢租	五九	(一) 名主(庄屋)	六九
(一) 年貢の金納制	五九	(一) 組頭	六九
(一) 年貢金の宰領	五九	(一) 百姓代	六九
(一) 小物成	五九		
六 太田領の貢租	五六		
(一) 板倉時代との比較	五六		

目 次

四 村役人の給与	(一) 馬屋肥	六四
二 村 入 用	(二) 石灰	六五
三 村 定	(三) 灰	六五
第四節 五 人 組	(四) 農作業	六六
一 五人組制度の沿革	(一) 農作業暦	六六
二 五人組の組織	(二) 出精触	六六
三 五人組帳の前書	(三) 年貢米の減免願	六六
第七章 産業経済	(四) 旱害 風損・二百十日	六七
第一節 農 業	(五) 農地の地力不足	六七
一 農 地	六 米の借出し	六八
(一) 田畠売買・質入れ	七 食糧の備蓄	六九
(二) 高分けの禁止	八 農 具	六九
(三) 農地の価格	九 農産物加工	六九
(四) 所有权の移転	十 農作物の値段	六九
(五) 刈敷山の売買	(一) 年々日記より	六九
二 耕 作	(二) 米の値段	六九
(一) 溜池新設	十一 作 柄	六九
(二) 田 植	一 宿場町と在郷商人	六九
(三) 播種と収量	二 売 薬 業	六九
三 肥 料	(一) 神農講	六九
	(二) 細井家の売薬業	六九

(三) 唐沢家の売薬業	一〇二
(四) 堀口家の売薬業	一〇六
(四) 木下目薬	一一〇
三 商品流通	一一三
(一) 米の流通	一一三
(二) 農産物・海産物の流通	一一九
(二) 中馬による商品流通	一二七
(四) 門屋『大福牒』よりみた商品流通	一二七
(五) 萬屋『店卸帳』よりみた商品流通	一二九
(六) 幕末の諸物価	一二三
第三節 諸産業	一二三
(一) 酒造業	一二三
(一) 酒造株と酒造高	一二三
(一) 酒造株の売買	一二三
(一) 井沢家の酒造業	一二三
二 養蚕業	一二九
(一) 古代・中世の養蚕業	一二九
(一) 江戸時代の養蚕業	一二九
三 製糸業	一三三
(一) 井沢家の製糸業	一三三
(一) 門屋の製糸業	一三三

第八章 村落生活の諸相

第一節 宗門帳による村の戸口	一四二
(一) 江戸時代の戸口	一四二
第二節 家族構成	一四三
(一) 大家族	一四三
(二) 家族人員の推移	一四三
(三) 江戸後期の家族構成	一四六
(四) 村々の年齢別人口	一四九
第三節 諸職人	一五三
(一) 村の奉公人	一五三
(一) 大農経営と下男・下女	一五三
(一) 奉公人の推移	一五三
(一) 奉公人の出身地	一五三
二 江戸奉公	一五七
(一) 元禄期の江戸奉公	一五七
(一) 天保の人返し	一五七
第三節 諸職人と旅かせぎ	一六一
(一) 諸職人	一六一
二 福与村の職人旅稼ぎ	一六三

第四節 金 融	八一	四 入会山地での領主間の紛争	八六
一 無尽・頼母子講・金貸	八一	(イ) 飯田藩による金山の試掘	八九
(イ) 無 尽	八一	(イ) 初期山論とその特徴	九一
(イ) 頼母子講	八一	(イ) 飯田藩による金山の試掘	九一
(イ) 金 貸	八一	(イ) 宽文十二年樋平争論	九三
二 質 屋	八一	(イ) 元禄山論と近世入会の成立	九五
	八一	(イ) 近世入会の成立と宝永元年裁許の意義	九七
第五節 村方騒動	八三		
一 村方騒動の概要	八三		
二 長岡の村方騒動	八三		
(イ) 享保・宝曆期の騒動	八三		
(イ) 文化・文政期の騒動	八三		
(イ) 天保・弘化期の騒動	八三		
三 上古田の小前騒動	八三		
第九章 山 林	八三		
第一節 入 会	八四	第二節 山 論	九六
一 概 説	八四	一 一の宮争論	九六
二 日向・日陰・青山の三山の山論	八四	二 横ノ木沢争論	九七
論地の所在	八四	三 大久保沢出入	九七
(イ) 入会の成立と経過の概要	八四	四 うつくね山論	九七
(イ) 近世入会の成立過程と山支配の重層性	八四	五 大泉所山争論	九九
	八四	六 下古田と大出の秣場山論	九九
第三節 御 林	九七	七 霧沢山論	九九
(イ) 発 端	九七		
(イ) 訴訟経過	九七		
一 木下の御林	九七		
二 西光沢山の御林	九七		

第十章 井 筋

第一節 井 筋

一 中井用水 斧 売

(一) 長岡の大火

(二) 大出の大火

(三) その他の火事

二 北ノ沢用水

第三節 水 害

一 享保の水害

二 元文の洪水

三 帯無川用水

四 大泉所用水

五 市ノ沢(田無川)用水

六 榛ノ沢水論

七 市ノ沢(田無川)用水

八 市ノ沢(田無川)用水

九 市ノ沢(田無川)用水

十 市ノ沢(田無川)用水

十一 市ノ沢(田無川)用水

十二 市ノ沢(田無川)用水

十三 市ノ沢(田無川)用水

十四 市ノ沢(田無川)用水

三 帯無川用水

第四節 水 害

一 享保の水害

二 元文の洪水

三 帯無川用水

四 大泉所用水

五 市ノ沢(田無川)用水

六 榛ノ沢水論

七 市ノ沢(田無川)用水

八 市ノ沢(田無川)用水

九 市ノ沢(田無川)用水

十 市ノ沢(田無川)用水

十一 市ノ沢(田無川)用水

十二 市ノ沢(田無川)用水

十三 市ノ沢(田無川)用水

十四 市ノ沢(田無川)用水

第十一章 災害・治水

第一節 自然災害・疫病の概要

卷三

第二節 囬 作

卷三

一 享保の囬作

卷三

二 天明の囬作

卷三

三 天保の囬作

卷三

四 囬作対策

卷三

(一) 御 囬 耕

卷三

(二) 施米・施金

卷三

(三) 囬作と年貢

卷三

第三節 火 災

卷三

第六節 猪 害

卷九

第七節 猪 手

卷九

一 猪鹿よけ

卷九

二 猪 土 手

卷九

(一) 大出の猪土手

卷九

(二) 中曾根の猪土手

卷九

三 猪鹿追い・猪鹿打ち

卷九

四 猪打ち費用

卷九

第十二章 交通・運輸

第一節 街 道

卷八

一 伊那街道

卷八

100

二 岡谷街道	101
三 春日街道	101
第二節 松島宿		105
一 松島宿の開設	105
二 宿役人	109
三 人馬の継立	109
四 伝馬の賃錢	103
五 巡見使の通行	105
六 旅籠	106
第三節 中馬		101
一 概 説	101
二 寛文の宝永期の中馬	104
(+) 寛文十三年の紛争	104
(+) 元禄七年の中馬と宿場の抗争	107
(+) 筑摩中馬の伊那街道進出	108
四 宝永七年の甲州津留	104
三 享保の宝曆期の紛争	103
四 明和裁許	109
(+) 裁許状	109
(+) 伊那道筋と口銭	105
(+) 中馬村と馬数	105
第五節 助郷		105
一 概 説	105
二 権兵衛街道の開さく	106
三 木曾助郷	103
(+) 助郷村と助郷高	103
(+) 助郷の手順	105
四 木曾助郷の賃錢	105
(+) 助郷高減免と竜東地区の代助郷	106
(+) 和宮御下向と木曾助郷	105
四 和田・長窪助郷	105
五 助郷の弊害	105
五 明和裁許以後の紛争	105
(+) 明和六年の紛争	105
(+) 松島村対箕輪領六か村の紛争	105
六 文化・文政期の紛争	107
(+) 文化年間の争い	105
(+) 文政年間の争い	107
七 中馬かせぎの実態	108
八 まとめ	106

第十三章 文 化

第一節 俳 谱

一 野口在色とその門流 (九)
二 早川石牙とその門流 (九)
三 中村伯先とその門流 (九)
四 高木布精とその門流 (九)
五 明治・大正・昭和期の俳人 (九)

第二節 和 歌

一 箕輪の和歌の流れ (九)
二 桃沢夢宅と松島社 (九)
三 大出の和歌 (九)
四 矢島敏彦と東箕輪の和歌 (九)
五 平田国学と和歌 (九)
六 伊那国風会と松島国風会 (九)
七 白夜会 (九)

第三節 狂 歌

一 太田春比良と渕井正雄 (九)
二 太田蜀山人と藤沢正慎 (九)
三 十返舎一九來遊と『滑稽旅賀羅寿』 (九)

第四節 箕輪に関する詩歌

一 箕輪十景の和歌 (九)
(+) 秩任山の作歌 (九)
(+) 宇治怡川の作歌 (九)
三 その他の詩歌 (九)

第五節 寺 子 屋

一 寺子屋について (九)
二 寺子屋の手本 (九)
三 寺子屋の教育方法 (九)
四 寺子屋の師匠 (九)

第六節 和 算

一 和算の学統 (九)
二 和算に関する資料 (九)

第七節 国 学

一 箕輪における平田学 (九)
二 国学の流布 (九)

(+) 平田学の伝播と箕輪の門人 (九)

目 次

二 神葬復礼と学祖神社	一八〇	(+) 発生期	一一〇
(+) 神葬復礼	一一〇	(-) 発展期	一二〇
(+) 学祖神社の建設	一一〇	(+) 明治・大正・昭和期	一二三
(+) 祖靈社の建設	一一〇	(-) 箕輪歌舞伎	一二六
三 東箕輪の平田学派の業績	一二三	二 箕輪歌舞伎	一二九
四 神道	一二三	(+) 発展期	一二九
第八節 美術工芸	一二三	(+) 明治・大正・昭和期	一二九
一 絵画	一二四	(+) 発展期	一二九
(+) 概要	一二四	(+) 発展期	一二九
(+) 箕輪の画家	一二五	(+) 発展期	一二九
二 書道	一二五	(+) 発展期	一二九
(+) 概要	一二五	(+) 発展期	一二九
(+) 箕輪の書家	一二五	(+) 発展期	一二九
三 工芸	一二五	(+) 発展期	一二九
(+) 赤羽焼	一二五	(+) 発展期	一二九
(+) 古田焼	一二五	(+) 発展期	一二九
四 刀工	一二五	(+) 発展期	一二九
五 石工	一二五	(+) 発展期	一二九
六 彫塑	一二五	(+) 発展期	一二九
第九節 芸能	一二〇	(+) 発展期	一二九
一 古田人形芝居	一二〇	(+) 発展期	一二九
第十節 医術	二三六	(+) 発展期	一二九
一 概説	二三八	(+) 発展期	一二九
二 町内の医師	二三九	(+) 発展期	一二九
三 馬医	二三四	(+) 発展期	一二九
第十一節 寺社と民間信仰	二三七	(+) 発展期	一二九
一 町内の寺院・神社・堂	二三七	(+) 発展期	一二九
二 江戸幕府の仏教統制	二四〇	(+) 発展期	一二九
三 檄家制度と檄家数	二四一	(+) 発展期	一二九
四 民間信仰	二三五	(+) 発展期	一二九
(+) 福与村の秋葉講	二三五	(+) 発展期	一二九
(+) 富田村大久保の伊勢講	二三七	(+) 発展期	一二九
(+) 北小河内村のお念仏講	二三〇	(+) 発展期	一二九
(+) その他の民間信仰	二三三	(+) 発展期	一二九
第十二節 史跡と文化財	二三五	(+) 発展期	一二九
一 神社建築	二三五	(+) 発展期	一二九
(+) 松島神社本殿	二三五	(+) 発展期	一二九

(一) 五社権現本殿	二三七
(二) 小河内神社本殿	二三七
(三) 長岡神社本殿	二三七
(四) 富田神社本殿	二三七
(五) 六白山神社本殿	二三七
(六) 嶺頭院の楼門	二三九
(七) 養泰寺の鐘楼門	二三九
(八) 無量寺阿弥陀堂	二三九
三 文化財目録	二三九
第十三節 修 史	二三九
一 小平物語	二三九
二 伊那温知集	二三九
三 路原拾葉	二三九
四 修史に關係した人びと	二三九
二 寺院建築	二三九
一 明音寺の樓門	二三九
二 和田峠の合戦	二三九
三 松島宿止宿	二三九
第三節 太田領離脱騒動	二三九
一 発生までの情勢	二三九
二 太田領分離訴願までの経過	二三九
三 騒動の経過	二三九
四 騒動の顛末	二三九
第四節 ヤツチヨロ騒ぎ	二三九
一 お蔭参り	二三九
二 ヤツチヨロ騒ぎ	二三九
第五節 明治維新へ	二三九
第十四章 幕末の諸情勢	二三九
年 表	二三九

第1編 原始

あとがき

主な資料提供者
主な参考文献

執筆者分担および監修者

箕輪町誌編纂刊行委員会

専門委員会
箕輪町誌編纂刊行委員会

荻原貞利